# 太宰府人物志

資料室だより ⑮

## 藤井功（ふじいいさお）と大宰府発掘

昭和43年（1968年）に開始された大宰府政庁跡の発掘調査は、早々に、創建期のものと思われていた地表に残る礎石建物の下から、先行する時期の礎石建物を、さらにその下から掘立柱建物を発見するという大きな成果を挙げました。それまでは地表の礎石が創建期のものとされ、941年に藤原純友によって焼き討ちされて大宰府の機能が失われ、国の重要施設である大宰府を再建できなかったところに律令制の崩壊を認めていました。それが再建されていたのです。これは、大宰府のみならず律令制に関する認識を大きく塗り替えました。以後、大宰府の発掘調査は数々の重要な成果を挙げましたが、その指揮をとったのが藤井功でした。

当時、九州の歴史考古学は寺院研究が中心で未発達でした。それまで奈良国立文化財研究所で平城京跡の発掘調査に当たっていた藤井は、その最新の調査技術や高い研究水準を大宰府の発掘調査に持ち込みました。以後、九州の歴史考古学は調査技術も研究内容も格段に進歩します。藤井は九州における歴史考古学の中興の祖なのです。

藤井の考古学は、学問的な問題解明はもちろんですが、そこで生活する人々の幸せを優先させるものでした。その姿勢は、大宰府史跡の発掘開始直前にムシロ旗を挙げて反対していた地元の関係者にすぐに協力者になっていただくような、心底のものでした。地元・上司・同僚はもちろん部下でさえ、藤井のことを、「こう（功）さん」と呼んで親しみました。

藤井は、太宰府に九州国立博物館を設置するという、雄大な将来構想をもっていました。それは一朝にしてできるものではありませんが、その前提として福岡県立の九州歴史資料館を設置しています。これが、念願どおりに九州国立博物館設置への橋渡しになりました。太宰府市は市制十周年を記念する『太宰府市史』の刊行を企画しましたが、藤井は太宰府市史編さん委員会の副会長として、市史の構成原案をまとめています。54歳の若さで他界した藤井の目には、完成した九州国立博物館の姿も『太宰府市史』も映りませんでしたが、太宰府市繁栄の功績者として藤井功は忘れてはならない人なのです。

公文書館構想調査研究委員会
副会長　高倉　洋彰